



患者様から「入れ歯が出来るまで、何回かかりますか？」という質問をよく受けます。そこで、今回は自費の総義歯を作る流れを特集します。

※義歯には部分義歯、総義歯があり素材や形、種類等で製作回数異なります。
※保険範囲内と自費義歯では、製作過程が異なるため回数は変わります。

総義歯を作る流れ(自費 精密義歯)

総義歯完成まで概ね6回かかります。



1回目 1次印象採得

金属の既製トレーでお口の中の歯型を採ります。



2回目 個人トレー作製・2次印象採得

1回目の歯型から患者様一人一人のお口の中に合わせた個人トレーを作成し、精密な歯型を採ります。



3回目 咬合採得

咬合床（ワックスで歯の高さに合わせた土手を作る）をお口の中に入れて、顔の調和や咬み合わせの高さと位置関係や前歯の出かたを決めます。



4回目 ゴシックアーチ

患者さまの顎の動きを計測して、正しい噛み合わせの位置を確認する方法です。その際には、患者さまが持つ顎のずれや噛みぐせの補正もできます。よい噛み合せの実現で、入れ歯が安定し、顎の異常や姿勢改善にまでつながります。



5回目 試適・筋圧形成

専用印象剤を用いて、患者さんに自力で口の周りを動かしていただきながら生理的・機能的な型を採取します。お口の中の動きに合わせた入れ歯にするため、口腔内周辺の筋肉の動きを精密に記録し、型(個人トレー)に反映させます。お口の動きを想定し、より患者様に合った入れ歯になります。



6回目 装着

完成した義歯を装着します。完成義歯を作製するにあたって、前述の段階を踏んで、精密に作製をするのですが、お口の中の粘膜は、物を咬む時や飲み込むときに様々な変化をします。そのため、微妙な咬み合わせの調整や、顎提の粘膜に当たる床の内面の調整が必要となります。

義歯は、歯が病気などによってなくなったことで失われた「物を咬む」という機能を回復するために用いられる「装具」です。精密に作ったとはいえ、やはり身体にとっては異物であることには変わりありません。ですので、新しい義歯を装着したばかりのときは、「違和感がある」、「咬み合わせがあまい」、「入れ歯が当たって痛い」など不便なことがあります。調整も必要ですが、新しい義歯に慣れるということも必要です。不便な点があった場合には、絶対に自分で削ったりせず、面倒でも歯科医院を受診して調整してもらうようにしましょう。